



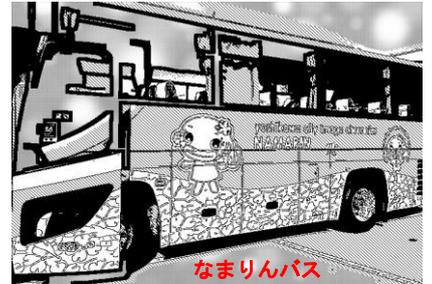
吉川市政報告

NO.1

ごあいさつ

市議会議員となって一年、手探り状況の中でしたが、皆さまのご指導、ご支援をいただきながら、どうにか議員活動に取り組んでまいりました。一年の締めくくりとして、市政報告をさせていただきます。

この間、4回の定例議会において吉川市の行政施策に対する市長の見解を問いました。第1回議会では、吉川のこれからの農業政策に対する課題と三輪野江地域の地域環境の問題、第2回定例会では吉川市の総合振興計画や、その執行体制について。また第3回定例会では吉川美南地区や産業まちづくり地域を中心とした吉川市のまちづくりの方向性、第4回定例会では地域コミュニティ施策について一般質問を行いました。



第1回 定例議会

平成24年2月27日～3月22日

第1回目の定例会は、平成24年度の予算を審議する重要な議会です。市長の所信表明演説があり、市が取り組む1年間の行政施策が示され、議会は市長の方針にゴーサインを出しました。

平成24年度の吉川市の予算は、一般会計で194億6,900万円、前年度比10億110万円の減、特別会計を含めた総予算では約310億円で昨年度とほぼ同じでした。一般会計が減に対して、国保会計、介護保険会計が増になったためです。

この議会で質問したのは、吉川市のかかえるこれからの農業政策について、その課題と取り組みの方向性と、三輪野江の地域環境について、とりわけ歩行用道路の整備と安全性の確保、農業用排水路の維持管理について質問しました。

市長の答弁は、農業の重要性の認識と、農業者の経営力の向上、担い手農業者の確保や、農地の集積化、農業者の経営力の向上に取り組むとの内容でした。また歩行空間については安全性、利便性について研究するとし、農業用排水路の維持管理について危険個所の補修などをすすめていくとの答弁をいただきました。



農業用水路の現状

第2回 定例議会

平成24年6月1日～6月15日

6月議会では、1億円余りの補正予算が審議されました。この時期の補正は不思議に思いましたが、国の緊急雇用事業関連などの予算が追加されたためです。

この議会では、吉川市第5次総合振興計画について、産業まちづくり地域の成り立ちと、白地地域の将来像について質問しました。また、効率的な市政の執行に関連して部門間の連携体制や、振興計画の進行管理について質問しました。

市長の答弁は、産業まちづくり地域が区画整理事業が断念された経緯から、その後の道路開通などを踏まえ、流通系の企業誘致など開発の方向性を見定めることが必要。また三輪野江地域の将来については、開発がなければ将来人口が10%程度減少するおそれがあるとの見解を示しました。

振興計画の執行体制については、事業者や地域との連携をはかるとともに、行政評価制度を活用しながら適切な進行管理に努めると答弁されました。

所属する会派自民・みらいでは、行政視察を行いました。建設中の吉川美南小学校。小中学校の給食食材の放射性物質を分析している吉川市東部市民センター。児童館ワンダーランドです。吉川美南小学校は、平成25年4月開校予定で、中庭のある三階建ての美しい校舎で、地区公民館などとの複合施設としてスタートします。

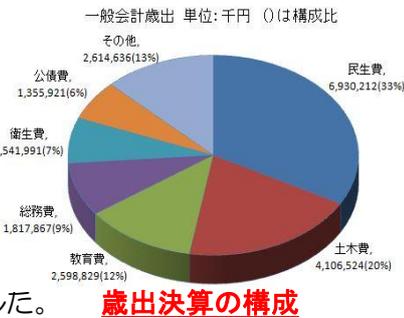


放射能測定器

第3回 定例議会 平成24年8月31日～9月21日

第3回目の定例会は、平成23年度の決算を審査する重要な議会です。

焦点となる決算審査では、実質赤字比率や、実質公債費比率など財政指標に示された数値は良好で、一般会計の実質収支で11億円余の黒字を計上、歳入では全体で7億円弱の増収となり、自主財源の割合も2.7%増加するなど、財政運営の健全さが示されました。



一方、補正予算の規模や、繰越財源による事業執行、多額の不用額が生じた事業の存在など、計画的な予算執行に努力が必要と感じられる箇所もありました。

この議会では、吉川市のまちづくりについて、とりわけ発展が期待される吉川美南新駅周辺の開発について。あわせて東部・北部地域の活性化策について。衰退が懸念される産業まちづくり地域についての行政施策について。農業集落排水路の今後のあり方や、行政評価の取り組みについてを質問しました。

市長の答弁は、吉川美南地区については、良好な住環境を創るゾーンに位置付けており、吉川美南駅を中心に一体的な土地利用を誘導していくこと。吉川の東部・北部地域については、他地域とのバランスを考慮しながら、幹線道路や生活道路、水路などに重点を置き計画的に整備するとの方針を示しました。

また産業まちづくり地域では、土地利用の変更を伴う開発は、行政がビジョンを示し地域の合意形成や諸条件の整理をすること、社会経済情勢を勘案し慎重に検討していくとのことでした。

農業集落排水路については、今後新たな整備は行わない方針。

行政評価の取り組みでは、行財政運営を推進するためのツールとして幅広く活用しており、平成23年度において廃止した事業は13事業。あらたに開始した事業は15事業であり、トータルコストの改善に効果があったと答弁されました。

第4回 定例議会 平成24年11月30日～12月14日

12月議会では、2億2,000万円余りの補正予算が審議されました。固定資産税の賦課誤りによる1億6,000万円ほどの市税還付金が補正計上されたのは、市の事務に瑕疵があったためで、市長など責任者が責任を負う結果をまねきました。

その他、吉川市暴力団排除活動推進条例や非常勤職員の報酬等に関する条例の一部改正条例など13の議案を審議しました。

この議会では、吉川美南地域のように人口が増加する地域と人口減少が危惧される地域があるなど吉川市のコミュニティの多様性について、その課題と地域コミュニティ対策のあり方について市長の考えを聞くとともに、コミュニティ振興方策について、地域の伝統まつりなどへの支援のあり方について質問しました。

市長は、相互扶助が希薄化している中で、住民の様々な交流機会の拡大が求められている。地域コミュニティの振興・活性化をはかるため、退職世代の活用など、新たな取り組みや支援分野の検討をしていくことが必要。地域のコミュニティ活動の活性化が大切なので、市の自治会交付金や活動補助金を活用して欲しいなどと答弁されました。

美南駅開業

平成24年3月に武蔵野線吉川美南駅が開業しました。駅周辺の開発については、吉川美南地区約82



ヘクタール、計画人口9,200人、総事業費396億円。武蔵野操車場跡地は、約28.8ヘクタールの開発が平成24年11月事業終了予定で、総事業費120億円、計画人口3,500人だそうです。駅東側地域の事業化は未定で、市としては計画面積約63ヘクタールを開発していく意向です。

まいちレポートバックナンバー